感染症の予防のための情報提供について

病　　名	腸管出血性大腸菌感染症　（Ｏ１５７）		
年齢及び性別	３０才・女性	職　業	会社員
住　　所	津市		
発病年月日	令和　元年　５月　３日		
診断年月日	令和　元年　５月１１日		

（患者発生の経過）
５月　３日　軟便の症状がみられた。
５月　５日　腹痛、下痢の症状がみられた。
５月　７日　症状継続したため、市内医療機関を受診した。
５月１１日　５月７日の便検査から、腸管出血性大腸菌感染症と診断された。
５月１４日　患者に症状はありません。

【防疫措置】　接触者の健康状況調査及び検便の実施（津保健所）

【県内での腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】（四日市市保健所分を含む）

	２０１５年	２０１６年	２０１７年	２０１８年	２０１９年
患者	２７	２９	２９	３２	７
保菌者	１０	１５	１３	１９	６
計(感染者)	３７	４４	４２	５１	１３

※２０１９年1月１日～２０１９年5月１４日現在まで本件含む
２０１９年内訳　患　者：Ｏ１５７（４人）Ｏ２６（２人）Ｏ１１１（１人）
保菌者：Ｏ１５７（１人）Ｏ２６（５人）

【自分でできる対策】
１　予防の３原則
①　加熱（菌を殺す）
この菌は熱に弱く、７５℃、１分の加熱で死滅します。
肉の生食は避けて下さい。特に子どもや高齢者は注意して下さい。
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。
焼き肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。
井戸水は、煮沸してから飲んで下さい。
②　迅速・冷却（菌を増やさない）
調理した食品はすぐに食べましょう。
冷蔵や冷凍の必要な食品は、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫（10℃以下）や冷凍庫（-15℃以下）に入れましょう。
③　清潔（菌をつけない）
手指や調理器具は十分に洗いましょう。
２　暴飲暴食を避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保って下さい。
３　腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けて下さい。